

令和4年度学校自己点検評価結果

学校法人札幌青葉学園

北海道看護専門学校

令和4年度 北海道看護専門学校 自己点検・評価 評価表

I 令和4年度重点目標に対する自己点検・評価

A. 教育活動および教育環境の整備

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 臨地実習のリモート実習および学内実習への振替えに伴い、円滑な実習の実施と目標教育到達レベルの確保	2.5	2.5	昨年度同様、可能な限り臨地における実習を実施するとの方針で実習計画を立て、これまでの経験をいかしCOVID-19感染症による影響により急遽学内実習に振替えとなった場合にも対応できるような各領域がそれぞれ事前に準備を行なった。そういった不測の事態への準備は、昨年同様に学生からも概して臨地実習では出来ない学修が出来たとの良い授業評価を受け、臨地実習とは比べ様がない部分はあるものの、相応に目標教育到達レベルの確保が出来たと考えている。評価が昨年と変わらなかったのは、教員は1つの実習に対し臨地、学内と2パターンの準備を要し、その負担が大きく、このことが一部領域間の整合性に難を残したとする意見等による。
(2) ICT教育の推進			
(ア) 電子教科書の導入推進、および他の電子教育媒体のスタディ・検討を行う	2.3	2.6	毎年教科書販売業者が出版元に電子化交渉を行っており紙から電子となる教科書も増え、今では3年間で使用する教科書の約9割が電子教科書となっている。 電子教科書以外にも、看護技術の修得のための技術動画を纏めた電子コンテンツや国試関連のデータベースを新たに導入した。 ハード面については、昨年課題となっていた教員のPCスペックについては、教員全員のPCを電子教科書対応スペックのPCに入れ替え、教員用iPadについても、各学年担任用(6台)、国家試験対策担当用(2台)と台数を揃えた。 これまで遠隔授業時を考慮し、iPad(電子教科書閲覧用)、ノートパソコン(講義内容閲覧および課題作成用)をそれぞれ購入しよう学生へ案内していたが、昨今の状況をふまえてタブレット・パソコン一体型(SurfacePro等)の購入でも問題ないか検討する必要がある。
(イ) office365を利用してレスタディ環境の整備向上を図る	2.7	2.8	学生および教職員全員にOffice365A-1(教育用)のアカウントを付与し、学生は1年次前期にWord、Excel、PowerPoint、Teams、Forms、Outlook等、Office365の基本的な使用方法を学び3年間の学修に活用している。 教員は学生への連絡案内だけに留まらず、課題作成や提出等、講義にも積極的に取り入れており効果などを実感できる機会が増え、昨年度よりも評価点が上がった。
(3) シミュレーション教育の導入・推進	—	2.6	シミュレーション教育は、より実践的な臨床経験を提供するための効果的な手法として成人・老年看護、総合看護技術より導入を行った。リアルな設定や患者シナリオを通じて学生は実際の臨床現場に近い状況をイメージしながら学ぶことができたと考ええる。また、シミュレーション教育では、フィードバックや振り返りの提供により、学生は自己評価を行い、改善点を見つめながら学びを深めることで実践的なスキルの習得や学生の成長に寄与したと考える。今後は、教務全体での勉強会を実施し、質の向上を目指していく必要がある。
(4) 模擬患者(SP)を活用した演習等の推進	—	2.6	模擬患者を活用した演習は、看護学生にとって非常に有益な経験となった。実際の患者と同様の状況や症状をシミュレーションすることで、臨床的な判断力やコミュニケーションスキルの向上に役立った。模擬患者との対話やケアプロセスの実践により、安全なケアの提供や問題解決能力の養成が促進された。また、エラーを犯してもリスクがないため、自信を持って学び、実践することができるメリットも大きいと考えられる。演習を通じて、フィードバックを受けることで、自己評価と成長への意欲も高まったと考える。模擬患者を活用した演習は、他校の専門学校では実践していないこともあって、本校の強みとして今後も継続的に実施し、看護学生の臨床実践能力の向上に努める。
(5) 教員研修の計画的実施	—	2.2	教員研修については、年1回「ハラスメント研修」を教職員全体で実施したのみであった。教員個々では、国試対策やシミュレーション教育研修などに参加はするものの、自己研鑽としての研修参加は少ないと考える。 教員研修については、組織分析を実施しつつ年間での教育計画を立案し、実施していく必要がある。

B. 学修成果と学生支援の整備

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 看護師国家試験の既卒者を含めた受験者全員の合格を目指す	2.5	2.4	今年度の合格率は、新卒者は76名中74名が合格し合格率97.4%、既卒者は5名中1名が合格し合格率20.0%であり、新卒既卒合計の合格率は92.6%であった。全国平均は90.8%。 国家試験対策担当教員を中心にこれまでの本校独自のノウハウと最新の実績等を分析し対策内容を毎年更新している。また、これまで通り放課後等の空き時間も利用し、他の教員も国家試験対策の指導に当たる体制が整っており、国家試験合格率は、毎年全国平均を上回っている。既卒者全員の合格を目指し早くからスケジュールを組み立てるなど現役生同様にサポート体制を構築しているが、結果的に20%の合格率に留まったことが低評価に繋がった。既卒生のモチベーションをどのように維持するか、指導方法を含め課題となっている。

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(2) 退学率の低減を図る	2.6	2.2	令和4年度の退学者数は7名であった。学生一人ひとりの動向を細かく把握し、担任を中心に学生や必要に応じ保護者との面談を行うなど問題解決に向けた学生へのサポートを行ってはいたが、ここ数年で最も多い退学者数となり昨年度と比較しても3名増であった為、低減を図ることが出来なかったことを重く受け止めた評価となった。 COVID-19感染症の影響で他者と対面で過ごす機会が少ない世代でもあり、対面では自分の考えや思いをうまく伝えられず誰かに相談すること自体に不安を感じ一人での悩みを抱え、看護師への思いを失い、欠席が常態化し、結果的に休学や退学を選択する傾向にある。 誰にも知られない様に匿名で自分の悩みや相談を聞いてほしい、共感してほしいという学生のニーズに対応したきめ細やかなサポート体制の構築が今後の課題である。
(3) 臨地実習施設との連携を図り、臨地実習施設への就職率(60%以上)の向上を図る	2.8	2.7	今年度卒業生(9期生)の就職希望者は75名。そのうち実習施設への就職者数は48名で実習施設への就職率は64.0%となり目標の6割を達成した。第2学年時に校内にて実習施設によるブース形式の就職説明会を開催しており結果に繋がったと考えている。
(4) 学生への経済的支援の充実を図る ・修学支援法をはじめ、教育訓練給付(専門実践教育訓練)金制度などの支援制度の周知、案内および申請のサポートを通し同学生への経済的支援を行う	2.8	2.8	修学支援法については、令和4年度においても文部科学省より修学支援法の対象校として継続して認可を取得した。学生には適宜適切に案内・説明会を行い保証人等からの相談にも対応し、新たに22名が支援対象者に認定され令和4年度は全体で40名が対象者となった。 また、日本学生支援機構奨学金の利用者は143名、社会人学生にとって大きな支援となる教育訓練給付金(専門実践教育訓練)の利用者は38名、その他自治体による奨学金制度の利用者は56名と、在校生の約7割がこれら支援を受けながら看護師を目指している。 これらの支援が滞りなく継続されるよう引き続き適切に対応し支援にあたる。
(5) 学生への就職支援サポートの強化 ・校内就職説明会等の実施、医療施設等への訪問等の実施	2.8	2.8	昨年度に続き2年生を対象とした校内病院説明会を開催した。実習施設の14病院を招き、ブース形式の説明会で学生は病院それぞれの特色や札幌市内の病院と市外の病院の違いなどを知り、自身が思い描く看護師についてより深く考えることが出来る機会となった。次年度も継続したい。 この他クラス担任及び教職員全体での学生に対する細やかな就職指導体制が整備され学生一人ひとりが将来の目標実現に向けて自主的・計画的に就職活動を行うことが出来るようにサポート体制が有効に機能しており希望者全員の就職が実現している。
(6) 卒業後のキャリア形成への効果の把握(卒業生へのアンケート調査の実施)	—	2.0	卒業生へのアンケート調査については実施に至っていない。 実施できていない理由としては、在校生への対応等に重点が置かれ、優先度が下げられたことが挙げられる。また、卒業後の連絡先などの把握などもできていなかったことも要因であった。 卒業後の就労状況やキャリア支援についてサポートしていくことは、学生にとって重要であると考え。卒業した学生にとって看護学校が悩みを相談したり技術的な相談ができるプラットフォームであることが大切であり、卒業生へのアンケート調査等は、教員だけでなく学校全体としてしっかりと取り組むことが必要と考える。

C. 学校運営と学生募集の強化

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 新型コロナウイルス感染症の感染対策の実施	2.7	2.9	昨年度同様学内で取り纏めた感染予防対策に基づき、①基本的な感染予防対策の指導②健康状態の把握③出席停止等の明確化④環境消毒等を徹底して行った。 また、教室の収容率の低減化、感染状況に応じて遠隔授業を行うなど、密回避、接触抑制策を実施した。感染防止用備品等については、消毒材、清拭材、飛散防止スクリーン等を各所に、学生にはマスク、フェイスシールドを配布し感染防止に万全を期した。 結果的に学校内を起因とする感染者は、3年連続でゼロであった。
(2) 教務・事務との業務連携の強化	—	2.4	教務と事務の連携については、毎週月曜日に連絡会を開催するなど情報の共有を図り、各事象に的確に対応する体制を整えている。従前より教務事務業務を事務職員がサポートする体制としていたが、今年度から厚労省によるガイドラインに教務事務を中心にサポートする事務職員の配置が求められる事となったが、これを機にガイドラインが示す事務職員を選定し一層の連携の強化に繋げている。やや評価が低いのは連携の状況を「発展途上」と考えている教職員の評価によるものである。 連携強化は業務の効率化と合わせ学校運営にとって重要な事項であり、その進化を図って行く必要がある。

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(3) 入学者の80名確保と本校のブランディングの強化			
(ア) ホームページ上の学校情報のタイムリーな発信	2.8	2.6	ホームページ（HP）上への学校情報の発信は、担当者を決め必要な情報の発信を行っている。やや評価が低いのは、発信情報に対してフィードバックが不足しているとの意見による。
(イ) 入試説明会・オープンキャンパスの充実	2.8	2.7	教職員および在校生が参加者ひとり一人に対しより細やかに目づ親身に対応を行うことができる様、今年度も入試説明会、オープンキャンパスともに1回の定員を30名とした。平日学校見学・個別相談も含めた参加者からの出席率は57%となり、また参加者からの入学志望者は57名と3年連続過去最高を更新することができた。現1年生へ本校の入試説明会、オープンキャンパスに参加し良かったと思えることを複数回答可でアンケート調査を行った結果、①入試説明、②学校紹介、③施設見学の順であった。また、看護学校を選ぶ上で最も重視したもののについては、①教職員や学生の雰囲気、②入学試験内容、③通学時間や通学手段の順であった。これらを参考とし一層の充実を図り、参加者が求めているものにしつかり応え、また本校の魅力を理解し感じ取って貰える内容とし、この学校で学びたいと強く願う学生の確保に繋げたい。
(ウ) 高等学校の訪問の充実	2.8	2.5	COVID-19感染症の感染防止に留意しながら、札幌市内の高校へ新卒生や在校生の状況報告を兼ねながら訪問し、学校の特色を説明し周知に努めた。また、高校主催の説明会があった1校、地方の実習施設訪問時に近郊の数校の高校訪問、この他高校推薦入学に対し推薦があった高校への入試結果報告を兼ねた訪問を行った。高校が必要とする情報の精査や訪問のあり方の検証を行い、継続的な高校訪問を実施し、高校との信頼関係を構築し、優秀な学生の確保を図る必要がある。やや評価が低いのは、教員への訪問状況の説明やフィードバック不足を指摘する声による。

II 学校評価ガイドラインに基づく評価項目に対する自己点検・評価

1：教育理念・目的・人材育成像

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	2.8	2.8	本校では、看護師を養成する施設としての理念、目的、目標を定め、育成人材像を明確にしておき、教職員共通の認識の下で学生の教育・指導を行っている。
(2) 学校における職業教育の特色が表われているか	2.8	2.7	理念、目的において、目指すべき看護専門職者としての在り様を明記し、目標において指標となるべき事項につき、具体的に6つの項目に分けて標記している。
(3) 教育理念・目的・人材育成像は社会のニーズに合っているか	2.8	2.7	厚労省による令和4年度からのカリキュラム改正に合わせ、昨年3年ぶりに改正を行った際、学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、教育理念に国際化の視点を盛り込むなど、社会のニーズを反映した内容としている。
(4) 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がなされているか	2.7	2.6	理念、目的、目標、特色については、学校ホームページや学校案内、シラバスに明記している。学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて、学生便覧を使用し周知している。また保証人等に対しては、令和4年度はCOVID-19感染症の影響により中止していた保証人等懇談会を、感染対策に留意し3年ぶりに開催し説明を行った。

2：学校運営

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 目的等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか	2.6	2.5	目的・目標に向けて、毎年運営方針を決定し、それに基づき事業計画も理事会の承認を経て策定されている。
(2) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	2.5	2.5	学校の運営組織の中に、細則に規定された意思決定機関として学校運営会議を置いており、意思決定機能は有効に機能している。また、教員による教務会議を月2回開催、および部門ごとの連絡会を随時開催することにより、情報の共有化を図っている。
(3) 人事、給与に関する規定等は整備されているか	2.4	2.4	人事及び給与に関する規程は、学校法人札幌青葉学園専任教職員就業規則、および学校法人札幌青葉学園給与規定において定められている。昇級の基準等人事評価に対する基準の明確化が今後の課題である。「人事評価基準」の導入にあたっては外部のコンサルの活用も検討する必要があると考えている。
(4) 各組織の意思決定システムは整備されているか	2.4	2.4	学園においては理事会を中心とした意思決定システムを整備しており、学校単位では意思決定機関としての学校運営会議がある。各部門における稟議から決裁までの各段階での承認についてもシステム化し実行している。

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(5) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2.8	2.7	ホームページ等を利用して随時情報発信を行っている。文科省による職業実践専門課程の認定維持に必要な各種の情報公開事項をホームページ等を利用して適切に公開している。また、オープンキャンパスや入試説明会においては、より詳細に説明を加え情報公開を行っている。
(6) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか		2.5	3年前より「学生管理システム」を導入し業務の効率化を図っている。導入時に臨地実習に係わるシステムの開発を行った実績がある。令和4年度はこのシステムに、独自の出席管理機能を追加することを決定し次年度開発予定としている。また、ハード面では、全教員のPCを処理能力の高い機種に入替を行うなどした。情報システム化による業務効率化は、教育の質と組み合わせて継続的に評価・改善する必要がある

3：教育活動

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(目標の設定等)			
(1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.8	2.6	令和4年度からの厚労省のカリキュラム改正に合わせ、教育課程編成委員会の議論等を加味し、教育理念から見直しこれに沿った教育課程の編成を行った。実施方針等は、毎年度明示されている。やや評価が低いのは、教育理念に掲げる「国際的視野」に関し教育課程の内容が薄いとの一部意見による。
(2) 各学年に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.8	2.7	学年別到達目標を明確に示している。またカリキュラム上の学習時間も法令で求められている時間数を上回っており学習時間は確保されている。
(教育方法・評価等)			
(3) 学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	2.8	2.7	今年度から新カリキュラムとなり、法令に基づき基礎分野、専門基礎分野、専門分野に分け、各分野とも密接に繋がり、体系的に編成されている。新カリキュラムの運用をとおし細部について今後科目間調整が必要と考えている。
(4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.7	2.6	看護学校のカリキュラムは厚労省により細部にわたり規定され、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム構成が求められており、本校はこれを実践している。キャリア教育については、令和4年度からの新しいカリキュラムに、コミュニケーション力や看護倫理意識の向上を図る科目を新たに設けるなどした。この他、高校を卒業して間もない若い世代が多い事から、医療人としての心構え等を育成出来るような教育も一部実施している。 教育方法の工夫や開発に関しては、今年度から、新たに外部人材による「模擬患者」や「ゲストスピーカー」を招いた演習や講義の実施を行い、学生の学修力向上を図った。 今後も教育課程編成委員会の運用などをとおし、有意義な講義カリキュラムの設定や教育方法の工夫・開発に継続的に努める必要があると考えている。合わせて、実施した内容についての検証・評価を行う必要があると考えている。
(5) 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	2.7	2.6	4年前より関連分野の団体、病院の役員等から成る教育課程編成委員会を組織し各委員による意見を反映できる体制としている。令和4年度からの厚労省によるカリキュラム改正に合わせ新しいカリキュラムの編成を行った初年度であり今年度は見直し等は行っていない。
(6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか	2.8	2.7	病院を中心とした臨地実習を合計で23単位行い実践的な職業教育を行っている。
(7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	2.7	2.7	科目の最終授業後に、学生にアンケート調査を実施し、授業評価を行っている。調査内容を基に授業の改善を図っている。学生からのアンケートの回収率については教員からの声掛けを行うことにより昨年度より上昇したが、まだ十分とは言えずこの点の改善・工夫と合わせ、より客観的な授業評価の在り方の検討が必要と考えている。
(8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.7	2.8	実習先や外部講師の方から個別に意見を伺うだけでなく、4年前より学校関係者評価委員を組織し、体系的に外部からの評価を取り入れる仕組みを構築している。学校評価を実施するなかで、外部評価の結果を教職員間で共有し、学校全体として組織・運営の改善を図る体制を整えている。
(9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	2.8	2.7	これらは「成績評価、単位の認定及び卒業に関する規程」に明記されており規程を遵守している。
(資格試験)			
(10) 国家資格取得に関する指導体制を体系的に位置づけているか	2.7	2.7	国家試験対策担当の教員を配置し、各学年計画的に模擬試験等の対策内容を策定し実施している。また、各学年の学修状況に応じて、クラス担任を中心に各種学力向上策を実施する体制を整えている。課題としては、個々の学生の状況に対応したより細やかな個別対応が必要となっている点、および国家試験対策担当教員やクラス担任など特定の教員への負担が大きい事が挙げられる。

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(教職員)			
(1 1) 教育理念・目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.5	2.4	専任教員、非常勤講師ともに要件を備えた教員を必要数確保している。しかしながら専任教員の人数が2年連続で減少したため一部教員の負担が大きくなり、この事がやや低い評価に繋がった。年度末には、次年度専任教員として新たに3名を確保することが出来、より充実した体制が構築されと考えている。
(1 2) 関連分野における業界連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保する等の取組みが行われているか	2.7	2.5	第一線で活躍している医師・看護師をはじめ、大学等から優れた講師を招き本校の教育に協力をいただいている。専門基礎分野の一部の科目において、複数の講師による授業の分担が余儀なくされている現状があり、今後の課題となっている。
(1 3) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.2	2.4	教員研修規程を設け、研修の参加費用の助成等を行っている。COVID-19感染症を発端にオンラインでの研修会が常態化しつつあり、経済的にも時間的にも受講しやすい環境となっている。必要と判断した研修には、「業務」として参加をしてもらうなど教員に求められる能力等を高める為の環境を整えている。しかしながら平日は授業や臨地実習先への引率等の通常業務があり、研修に参加する場合は休日または通常業務の合間となる事も多く、時間の確保が課題となっている。 教員の教育力の向上は学校経営にとって重要課題であり、計画的な研修の立案を含め積極的にサポートする必要がある。一定時間の研修を義務化するなどの仕組作りが必要であり早急に取組みを進めたい。 学内研修として、今年度も昨年度に続き顧問の弁護士に依頼しハラスメントに関する研修会を1月に開催し、ハラスメントに対する理解の向上を図った。
(1 4) 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.0	2.2	事務職員に関してても日常業務との兼ね合いで時間的な制約が大きく、外部主催の研修会への参加は無かった。事務職員の能力向上も重要課題であることからリモート研修等の情報をキャッチし計画的な研修を実施する必要がある。

4：学修成果

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 就職率の向上が図られているか	2.8	2.7	求人情報の公開はもとより就職ガイダンスの開催等、就職に関するサポート体制が整っており、就職を希望する者の就職率は開校以来100%である。
(2) 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.3	2.2	卒業時に実習先に就職した学生については、教員が近況や評価を聞くことがあるが、積極的・定期的には実施してはいない。それ以外の卒業生についても動向を把握しきれていない。学校からのアンケート調査や同窓会等を通じて、卒業生の勤務状況等を把握する必要がある。 卒業生にとっては、教員からの連絡等は励みにもなりアンケート調査等は貴重な情報源になり得る。また、卒業生の活躍の状況は学生募集の際のPRに繋がる事から次年度以降積極的に取組む必要がある。
(3) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.4	2.3	組織的に卒業後のキャリア形成への効果の把握を行ってはいない。実習先に就職した学生等、状況が把握しやすい卒業生へのヒヤリング等を行っているのが実情である。今後はアンケート調査の定例化や同窓会の開催をサポートし情報を収集し、教育課程編成委員会への諮問等を通し教育活動の改善を図る必要がある。

5：学生支援

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 学生相談に関する体制は整備されているか	2.5	2.5	主に各クラス担任が学生相談の窓口となり、必要に応じて役職教員も加わり対応している。教員だけでなく事務部門においても奨学金サポートによる学生との接点を活かし、相談窓口となって対応している。 専門性の高いカウンセラーの必要性については、ニーズの把握と利用方法等について学生へのアンケート調査を実施し検討する必要がある。
(2) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.8	2.8	文部科学省による「修学支援新制度」の対象校の継続認定と合わせ、担当者を配置し学生の支援を行っている。また、日本学生支援機構の奨学金、その他各種奨学金の案内や助言およびサポートもしている。さらに、社会人に対しては、専門実践教育訓練給付金制度の認定校として該当者に対し支援を行っている。加えて、学生の家計事情によっては納付金の分割も認めサポートしている。その他、学校独自の奨学金給付規程に基づいた支援を行っている。
(3) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.8	2.8	学校教育法、学校保健安全法に基づいて、毎年春に健康診断を実施している。また、健康診断結果に基づいて、健康管理担当教員を中心に健康管理への指導、健康相談等を行っている。 学校医が3年前より不在となっているため、人材の確保を進める必要がある。

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(4) 学友会が円滑に活動するための支援体制がある。	2.8	2.8	学友会担当の教員を選任し、共用ではあるが学友会用の部屋を提供するなど、学友会活動のサポートを行っている。担当教員に負担が偏っている状況であったことから、事務部門に今年度から新たに設けた学生支援室も支援の一翼を担うこととし、教員の負担軽減を図りつつ、一層の支援が可能な体制とした。
(5) 保証人等と適切に連携しているか	2.8	2.7	COVID-19感染症の影響により2年間中止していた各学年の保証人等懇談会・個別相談会を3年ぶりに開催し、連携に努めた。この他必要に応じてクラス担任が中心となり個別に面談や電話による相談を行っている。学生の生活環境、精神的な成熟度の個人差など、多様性が広がる状況において、保証人等との連携は学生指導の成否を分ける大きな要素であり、最近の保証人等と学生の傾向を考えると、よりタイムリーな連携を図り家庭と学校で協力して学生をサポートする必要がある。 保証人等の学校への理解の深化の方策として、年一回程度学校からの問い掛け的な発信等も今後の検討課題と捉えている。
(6) 卒業生への支援体制はあるか	2.6	2.4	卒業生から要望があった場合には、担任であった教員が中心となって個別に対応支援をしっかりと行っている。卒業生に対し、学校として支援する意思があることを、同窓会等を通し伝える必要があると考えている。 国家試験不合格者への支援体制は整えていたが、既卒不合格者5名の内1名だけの合格に留まった。支援体制を含め支援方法について再検証し再構築する必要がある。
(7) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.6	2.4	入試方法に社会人入学を設け、入学しやすい環境を整えている。また、既修得単位認定制度を設け、時間の負担軽減を図っている。修学資金についても、専門実践教育訓練給付金制度認定校の維持および札幌市ひとり親家庭自立支援給付金（親側の学びの支援）利用者へのサポート等を行っている。臨地実習の実習先選定についても要望に叶うよう出来る限り配慮するなどしている。やや評価が低いのは、ICTに関する教育・サポートが不足しているとの指摘があったことによる。

6：教育環境

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 施設設備・教材教具・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.5	2.5	学生数に対する教室・実習室等は教育上の必要性に十分対応している。 やや評価が低いのは、図書室の蔵書の数、質に対する評価である。蔵書に関しては日々進歩する医療についてより新たな情報を学ぶためにも、図書等を選書する仕組みやルールを作り、最新の専門書の購入を進めて行く必要がある。 教具を含めた設備・備品面においても、教育の質向上に資するものを計画的に整備・購入し充実させて行く必要がある。
(2) 学外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	2.7	2.7	臨地実習施設との連携の上、教育体制の充実を図っている。実習施設が多岐多数にわたるため情報共有・連携の均一性に差が見受けられるのが課題となっている。今後は、COVID-19感染症問題により開催を見送っている実習指導者会議の実施などを通し、この差をできる限り少なくする努力を継続的に行う必要がある。
(3) 防災に対する体制は整備されているか	2.8	2.9	施設設備は十分に整備しており定期的に消防設備点検（年2回）を行っている。令和4年度の消防訓練は、COVID-19感染症を意識し、3密を回避しながら3年ぶりに行った。 災害時に学生・教職員の安否確認を確実に迅速に行える安否情報システムを導入しており、定期的にその使用訓練を行い稼働状況を確認・指導を行っている。 防災用品の備蓄として、カセットコンロ、保存水、乾パン、非常用トイレ、携帯カイロ等を今年度も購入した。今後も計画的に備蓄品の整備を進める必要がある。

7：学生募集

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 高等学校に対する情報提供が行われているか	2.8	2.8	学校ホームページにて各種情報の提供を適宜行っている。「公開情報」として文科省による職業実践専門課程の認定および維持に必要な情報を公開している。 本校の在校生及び新卒生についての状況報告はもとより、高校訪問を実施する中で高校が求める情報の把握に努め適切な情報の提供を継続的に行う必要がある。大学志向が強い状況から、専門学校の良い点の広報は極めて重要と考えている。高校生にとって重要な情報の一つである、OB、OGの声をホームページ上に数多く掲載することを今後早急に進める必要がある。
(2) 学生募集活動は、適性に行われているか	2.9	2.8	文部科学省・入学者選抜実施要項に基づき、学生募集活動は適正に行っている。
(3) 学生募集活動において、国家資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	2.8	2.8	学校案内等において最新の情報を記載し、またホームページ上で公表している。これら以外にも高校訪問、入試説明会、オープンキャンパス、個別相談会等で伝えている。

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(4) 多様な選抜方法と学生の状況について検討しているか	2.9	2.8	北海道の地域医療に貢献できる看護師の育成を特色としており、選抜方法に本校独自の地域指定推薦制度を、また社会人のニーズにも対応できる様、社会人入学も設けている。一般入学については、前期日程、後期日程と時期をずらした選抜方法を設定している。 高校新卒者の入学者減少傾向を鑑み、優秀な高校生の確保の観点から、指定校推薦制度および高校推薦制度も導入している。 今後は、入学試験の科目についても、適宜検討し時流に合った内容とする必要がある。
(5) 入学選考は、適性かつ公正な基準に基づき行われているか	2.9	2.8	学科試験問題の作成および管理は厳正に行われており、合否については、本校の定める入学試験面接評価基準および合否判定基準に基づき合否判定会議にて適正かつ公正に行なっている。
(6) 学納金及び教科書代等の実費に係る負担金は、妥当なものとなっているか	2.7	2.6	学納金については学生募集要項に明記されており、学校運営経費や臨地実習経費等を鑑みて、適切な金額設定としている。教科書代等の実費負担金等についても、その必要性を吟味し、各協力業者からの見積金額を精査の上、業者決定金額を直に学生負担金としており、妥当なものとなっている。ただ、金額的に年々上昇しており、学生の負担が大きくなっていることから、内容の一層の吟味が必要と考えている。

8：財務

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.8	2.8	近年の経営状況から、財政基盤の安定化が図られている。今年度の決算も黒字の予想である。今後とも入学者の確保と適切な支出管理を行い、学園の財務基盤の安定化に貢献する考えである。
(2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.8	2.8	予算・収支計画については、学生の在籍状況から算出される収入と例年の支出状況を基に立案し、理事会、評議員会で審議され、作成している。経常経費以外の教材教具等については、教員との擦り合わせを行い適正・計画的に執行している。決算内容は、例年予算と大きく変わることはなく、予算・収支計画は有効妥当なものとなっている。
(3) 財務について会計監査が適正に行われているか	2.9	2.9	会計監査は、監査法人のもと、公正、適切に実施されている。
(4) 財務情報公開の体制整備はできているか	2.9	2.9	学園の財務情報公開体制は整備され、財務情報は公開されている。 学校単体については、現状公開されていないが、教職員に対しては学校の収支状況を説明している。

9：法令等の遵守

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2.7	2.8	専修学校設置基準、看護師学校養成所指定規則、看護師養成所指導ガイドライン等の法令、基準に基づき適正な運営を行っている。
(2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2.8	2.8	学園として個人情報の取扱いに関する規程を整備し、その保護の対策が取られている。また、日頃から注意喚起を行いその保護に努めている。学生に対しては情報倫理に関する規程を設け学生便覧にも記載している。この他臨地実習要綱書においても個人情報の保護に関し細かく明文化しその保護の徹底を図っている。 具体的な施策としては、学生が臨地実習などで使用するUSBにはパスワードを設定し、紛失時の個人情報の保護、漏洩防止に当たっている。また、Net回線を学生用と教職員用で分離し校内サーバーへのアクセスを完全に遮断し保護している。
(3) 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行い、公表しているか	2.7	2.7	自己点検・評価を実施し、それを基に学校関係者評価委員会を開催し、それぞれ学校自己点検評価結果および学校関係者評価委員会報告書として学校ホームページ上に公表している。自己点検と合わせ外部の委員の意見を探り入れ問題点の把握と改善に努めている。 今後は、評価項目についても学校関係者評価委員会委員等の意見を参考に、適宜見直しを行う必要がある。

10: 社会貢献・地域貢献

評価基準 3段階 3:適切 2:やや適切 1:不適切

評価項目	前年度 評価 (平均)	評価 (平均)	評価の概要と今後の課題
(1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.5	2.5	外部からの要望により、学校施設や教材の貸し出しを行っているが、積極的には告知活動はしていない。今年度の実績は、昨年度に続き看護協会の研修場所として施設の一部を提供した。また、実習先施設からの要望により蘇生人形などのシミュレーターを貸し出した実績がある。今後も要望・要請があれば対応する方針である。評価がやや低いのは、「受け身」の方針への理解度が低いことによるものと考えられる。
(2) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.4	2.5	公開講座・教育訓練の受託については、マンパワーの問題や、安全面を指摘した学校関係者評価委員会の意見もあり、積極的には実施はしていない。要望があれば検討し受託するという方針としている。